日本盆栽作家協会会報

第20号
平成24年9月1日

盆栽は作家なくして作品なし
作品なくして芸術なし

盆栽は、作っていく過程が大切、意図を持って、作家の人格を樹に刻んでいきたいものです。
（清香園）山田登美男

盆栽とは、人と自然が一体となって永い人生を旅するようなもの。盆栽作家は自然を手本として学び追求し、人の心が自然と一体となって作品が生まれるのです。
（竹楓園）須藤進

盆栽の生育の過程での試練から、生きる事、死ぬ事の厳しさを教えてくれます。
（春花園）小林國雄

第 20 回 作家展 開会式テープカット（於：大宮盆栽美術館）

第20回作家展

会期／前期　平成23年9月30日（金）～10月5日（水）
　　後期　平成23年10月7日（金）～10月12日（水）
会場／さいたま市大宮盆栽美術館
主催／日本盆栽作家協会

前期展示作品

真柏　小林國雄　新渡外縁長方
見所は、幹の正面で複雑なうねりを見せるシャリの造形であろう。
自然の厳しさに耐える、力強い生命力を感じさせる作品である。

五葉松 石付き（銘 蒼穹）
山田登美男　常滑楕円水盤
銘の「蒼穹」とは、蒼い空を意味する漢語である。天高くそびえるような石の姿と、空の上の雲のように配された松葉の緑が印象的な作品である。

仏手柑　菊岡成泰
和均釉正方
仏手柑は、仏の手のような実の形から、その名が付けられた。緑から黄に次第に色づきはじめ、秋の訪れを知らせてくれる盆栽である。

黒松　小林國雄
舟山長方
苔むした幹と力強い枝葉の躍動感が、観る者を圧倒する、堂々たる作品である。

赤松　矢内信幸　南蛮丸
軽やかでリズミカルな動きを見せる枝ぶりが、際立つ作品である。水石と組み合わせることで、空間の広がりも生み出されている。

五葉松（銘 松国宝）　阿部健一　和長方行山
円形をなした松を基本にして、自然の山の姿を映し出すように作られている。バランス良く配された枝や葉が印象深い作品である。

五葉松 石付き　野上寿明　寿山
鋭い刃先を持つ剣のような頂は、中国の厳しい自然を想起させ、そこに生きる植物の、生命への執着心が見てとれる。

ヨーロッパ赤松懸崖　鈴木英夫
南蛮丸
ヨーロッパの高山の岩場に自生する赤松で、五葉松のように短い葉を特徴とし、その厳しい環境が想像される。細い幹はねじれを帯びて、複雑な動きを見せている。

五葉松　須藤雨伯　紫泥外縁長方
五葉松ならではの松の景趣（けいしゅ）を作り上げた作品。長谷川等伯の描く松林図を彷彿（ほうふつ）とさせる、見事な一鉢である。

※ 13 頁の後期展示作品へ続く

年輪と品格

日本盆栽作家協会代表幹事
山田登美男

私の古い友人で大変な親日家であったイギリス人で50年位貿易の仕事の関係で来日し、盆栽もご夫婦で愛好されたスタホード・ジョンズ氏に招かれて、ロンドンに娘と二人で訪問したのが２００２年の秋頃であった。

夜遅く彼の自宅に到着し、翌朝、庭に出て御棚を拝見して驚いたのですが、盆栽が霜をかぶり寒そうに凍えていた。

しかし、落葉樹の冬芽がまぶしいぐらいにピンク色に輝いて元気に歓迎してくれたようで、嬉しかったものです。

彼の住んでおられた場所はロンドン郊外で、直ぐ近くに有名なゴルフ場があり、素晴らしい景観の別荘地であった。

ロンドンに10日間の滞在中、5日間キューガーデンで過ごしたわけだが、園内は大変に広く、東洋関係では日本庭園と中国庭園が特に印象に残っている。

主な目的は、彼が50年間で収集愛盆された盆栽の育成管理についての相談指導であった。

キューガーデン園長から挨拶があり、

「植物に関しては世界一であり、当園にないのが盆栽だけです。今後は、盆栽についても力を入れて行きたいのでご協力をお願いしたい」とのことであった。

地球上の10％位、めずらしい品種を管理しているとのことであったが、残念ながら日本の盆栽だけが無かったのです。しかしその規模といい、内容の素晴らしさは一見に値する。

彼の自宅に残った10鉢の盆栽は小品・中品の大きさによくまとめられて楽しげであった。

私共の庭の山もみじの実をいつも拾っては帰り、丹精し育て上げられたものばかりだと聞いて、これだけはどうしても手放すことができなかったと聞きました。

なるほど彼は奥さんと二人で

花梨（かりん）

左は、75 年前の写真で、右はその現在の姿。長い年月を経た品格が漂う。（大宮盆栽美術館所蔵）

実性から育てられたかわいいもみじを眺めては、日本を想いだしておられたと強く感じ入りました。

よく見るともみじらしく木ぶりも良く、20センチ前後によくまとめられており、何よりも実性からの鉢持ち込みのよさがよく表れており、本物の盆栽がここに存在すると思った。約30年間の鉢での培養育成は、樹格・品格・年輪を上げることになり、自然らしさの美が生まれ、畑に下ろして栽培された物との差が大きいのは当然である。

時代は、デジタル化が全盛であり、スピードの時代であればこその時間をかけた盆栽創作活動が必要であり、また、作家精神が貴重な存在になるわけです。

魅力ある年輪の木肌の美しさや風格模様は自然と一体になるよう、盆栽芸術を高める努力が求められる重要な時期を迎えている。

（日本盆栽作家協会講師）
吹田 勇雄

日本盆栽作家協会ヨーロッパ支部主催
2011年9月23日～26日
イタリア・リバルタ・ヂ・トリノ

BONSAI イタリア大会

（左上）ミラノ市風景
（左・上）盆栽大会場にて

イタリア・トリノ市郊外のチステルチェンセ修道院において、日本盆栽作家協会ヨーロッパ支部主催の盆栽大会に講師として招待されましたので、その模様をご報告します。

地元の盆栽にかける期待も高く、オープニングセレモニーには、トリノ副市長やリバルタ市長も一緒にテープカットを行うほどでした。私のデモンストレーションで、なんのへんてつも無い株立ちの木が、アルプスの崖に風雪に耐える吹き流しを表現すると会場からスタンディングオベーションで拍手が鳴り止まず感動ものでした。夜は、市長なども交えた懇親会等で、盆栽談義がおおいに弾み、小鉢や掛け軸、本等、盆栽に関係した品物を景品とした宝くじ等のイベントも有り、楽しいひとときを過ごしました。

◎イタリア フランキー盆栽培養場

２０１２年２月、イタリア　トスカーナ州にてワークショップ開催。

フランキー盆栽は、日本の盆栽園とは規模が違う。実は、イタリアは、ヨーロッパで最も盆栽が盛んな国である。盆栽の輸出入量もヨーロッパでトップクラスかと思われる。全国的なイベントが継続して開催されており、一過性のブームでは決してなく、園芸の一分野として深く浸透しています。

（日本盆栽作家協会　小林國雄）

2011年10月28日
中国　江蘇省南通市

（日本盆栽作家協会常任幹事）
小林 國雄

2011 中国盆景久发杯精品展

（右）デモンストレーション。
（上）開会式。　（左上）展示作品。
（左）開会の挨拶をする主催者 Sun Fang 氏。

現在の中国の盆栽界は、すさまじい勢いである。江蘇省南通市に、須藤進氏と共に、大会に参加してきました。

中国の盆栽の特徴は、豪快で伸びやかである。すべての規模が大きく、すさまじい熱意が感じられる。日本の雅趣・風韻を取り入れ、小さな鉢で持ち込み、生命の極限の境地と品格を求める趣向で、欧米の自然を取り入れた繊細な生命力の表現とは一線を画する個性と言える。今後は培養管理の研究、鉢合わせや景道の作法などを習得し、樹・鉢・卓の三位一体の調和を理解した時、より深い盆栽文化が花開くであろう。

会場で須藤氏が作家協会を代表して挨拶をし、私は大きな真柏の改作デモンストレーションを行った。

中国 寧波（ニンポー）盆栽公園

2012年4月6日、上海から南へ車で三時間、36キロもある橋で海を渡り、寧波と言う所に着く。

山を切り拓き、大規模な盆栽公園を造成している。盆栽の手入れを頼まれ、吹田氏と秋山氏と共に、一週間ほど、仕事をして来た。盆栽の大きさとスケールの大きさには、ただ々驚かされる。（小林國雄）

盆栽コラム

自然美の縮図

松本清張

日本の芸術は、自然美を圧縮凝集するにあるように思われる。

日本人ほど四季の自然に感情が影響され、また心情を自然に仮托するものは世界にあまり無い。

そして、広い自然をミニチュア化す芸術は世界一である。和歌、俳句の短詩がいかに自然の詠歎に発しているかをみるがよい。

庭園、盆景もそうである。こうした縮図形式は、容易に旅に出られなかった往時の日本人が、日常生活の中に「自然」を持ち込み、それを観賞する希求から生まれたと思うのだが、なかでも盆栽は自然を象徴する樹木によって、深山幽谷や広闊な高原を現わしている。

これを見ると、居ながらにして心が幽すいな山野に遊ぶのである。

真柏（銘 明星）　山田登美男　古渡烏泥撫角長方

うねりを持った大きな幹の大胆さと、気品を兼ね備えた真柏である。
深い山奥で、ひときわ光輝くという意味から、「明星」と名付けられた。

皐月（銘 大盃）　秋山実　新渡外縁楕円

石付きの幹の立ち上がり、繊細な葉や幹の重なり、
それぞれの姿が大木を想わせる作品である。

真柏　　吹田勇雄　古渡烏泥

本作品は、シャリと幹がお互いに軽やかな曲線を描くことで、
気品あふれる姿となっている。

五葉松　今井千春
大正渡袋式楕円

豊かなふくらみを持った根元と、後方からせり上がるように流れる幹が、調和の取れた、美しい作品である。

五葉松（銘 世紀の夢）
須藤雨伯
絵紅泥外縁長方

五葉松の理想ともいうべき作品。龍が天に昇り、雲がたなびくさまが、動感あふれる印象的な作品である。

長寿梅　矢内信幸
和均釉長方

長寿梅は、木瓜（ぼけ）の一品種。左右に腕を伸ばしたような枝ぶりと、そこに見え隠れする、朱色の花が印象的な一鉢である。

赤松　田中泰道　新渡中国

うねりながら円を描くように、上へ上へと立ち上がる幹が見どころの一点。この動きは、まるで龍が天へ昇っていく姿を想わせる。

花梨　小林國雄　誠山撫角長方

太くたくましい光沢のある幹が、大きな存在感を主張し、黄味を帯びた実が、秋の訪れを伝えてくれる。見所の多い作品である。

こまゆみ　山田寅幸
白釉丸

ところどころに朱を帯びた葉の色が、これから訪れる秋の気配を感じさせてくれる。また、葉の陰に隠されて種をつけた、小さな実の姿も愛らしい一鉢である。

※ ３月に当会に、福舘治（ふくだておさむ）氏が新たに入会されました。また、都合により森前誠二氏が退会されました。

表　紙：サザンカ　　瑠璃釉長方（第 21 回作家展　出品予定）
発　行：日本盆栽作家協会／責任者　山田登美男　埼玉県さいたま市北区盆栽町 268　清香園　TEL 048-663-3991
事務局：江口信二　　埼玉県白岡市野牛 1062 - 5　　TEL 0480-92-3897